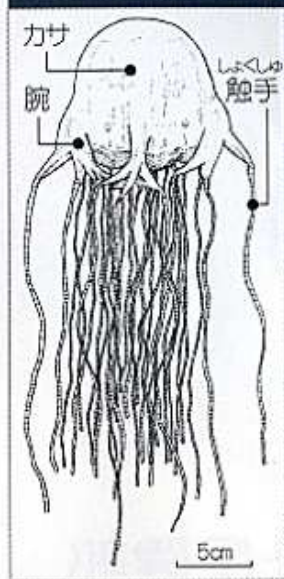
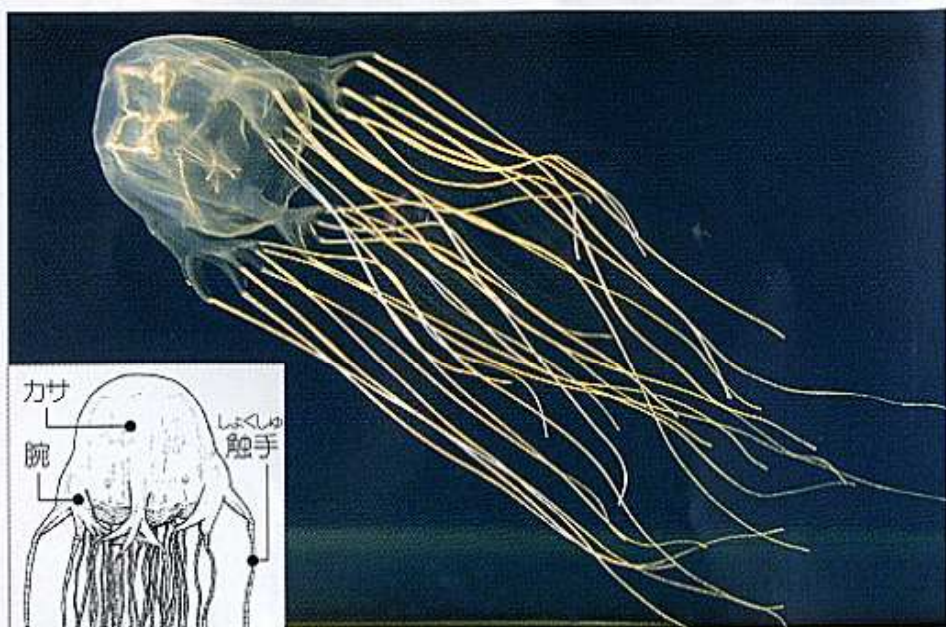


ハブクラゲ

5 ~10月頃に発生するクラゲです。県内ほぼ全域に分布していますが、慶良間諸島など、これまでハブクラゲが確認されていない地域もあります。水深50cmほどの浅い場所にもきます。刺されるととても痛く、ショックを起こすこともあります。これまでに3人の死亡者がいます。ハブクラゲが大きくなる7月~9月に被害が多くなります。

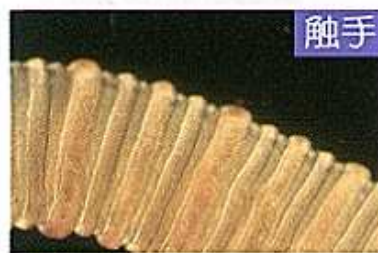


しほくしゅ
触手はエサをつかまえるために使います。カサからは4本の腕が出て、そこからひも状の触手が伸びています。成長すると、カサの高さが10cm以上、のびちぢみする触手は150cm以上になることもあります。



カサが半透明なので見つけにくいクラゲです。

しほくしゅ しほう
触手には刺胞(毒針と毒液が入ったカプセル)がたくさんあり、何かに触れると毒針が飛び出し、毒を注入します。



触手



刺胞



毒針が飛び出た刺胞

↓ 刺激すると…



たくさんの毒針が飛び出しています。



刺傷例

応急処置 (ハブクラゲ)

- ① 刺されたらすぐに海からあがる
刺された部分は絶対にこすらない
- ② 酢(食酢)をたっぷりかける
- ③ 触手を手でそっと取り除く
- ④ 痛いときは氷や冷水で冷やす



呼吸や心臓が止まった場合は、すぐに人工呼吸、心臓マッサージを行う

ハブクラゲに刺されないためには・・・

- クラゲネットの中で泳ぐ(裏表紙)。
- クラゲネットがない場所では、ウェットスーツや長そでTシャツ、スパッツなどを着用し、肌の露出を少なくする(刺されても毒針が皮フまでとどきません)。
- ※ 完全に被害を防げるわけではなく、被害を最小限にできるということです

刺された時のために・・・

- 応急処置法をおぼえておく
- 近くの病院を確認しておく

なぜ酢がいいのか？

- 触手にはたくさんの刺胞があるので、ちょっとさわっただけでは全部の刺胞は発射されません。ですから、ハブクラゲに刺されたところに触手がくっついている時は、絶対にこすったりしてはいけません。こするとそれが刺激となって、残っている未発射の刺胞が発射して傷が広がってしまいます。酢には刺胞の発射を止めるはたらきがあります。そのために応急処置に使うのです(アルコール類では刺胞の発射を止めることはできません)。残念なことに、酢が役立つのはハブクラゲだけで、カツオノエボシやウンパチイソギンチャクなどは、逆に刺胞を発射させてしまうこともあります。